

【問い】91歳の母は15年前にうつ病になりスルピリドを高用量服用していると、3年前から歩行困難に。薬を変えて回復しましたが、次は口が勝手にぱくぱく動き、遅発性ジスキネジアが原因とされました。スルピリドの再開で口の動きは改善しますが、歩行は難しくなります。(女性)

KARTE
カルテ
Q & A



藤原豊医師

遅発性ジスキネジア

原因となる薬は徐々に減量を

「ススキネジア」は異常運動という意味です。部位としては舌や口唇、顎部に多くみられます。お母さまは以前にうつでスルピリドを処方され、高用量を服用されていたとのこと。うつ病のほか統合失調症、胃・十二指腸潰瘍にも使われる薬です。

【答え】遅発性ジスキネジアの「遅発性」とは、原因となる薬物を飲み始めて長い期間経過してから出現することです。「ジ

スキネジア」は異常運動というためではないでしょうか。薬の変更でパーキンソン症状が改善し、歩けるようになったと考えられます。ところが今度口が勝手に動くようになり驚かれたと思います。パーキンソン症状もジスキネジアも、脳にある運動神経の経路「錐体外路」

スルピリドの作用は、神経伝達物質ドーパミンの受容体を遮断することで発揮されます。ドーパミンを介した神経伝達が抑制され、筋肉のこわばりや震えなどパーキンソン病に似た症状が副作用で出ることがあります。特に高齢の方は出やすく、3年前に歩けなくなったのはそ

統合失調症患者でも遅発性ジスキネジアを併発する方がいます。遅発性ジスキネジアは一度出現すると治りにくいと言われますが、出現からまだ間がなければ、改善することもあります。スルピリドを急にやめるのでは

に異常をきたすと生じます。遅発性ジスキネジアは、ドーパミンの働きを遮断する薬物の長期間にわたる服用を急にやめると、ドーパミンの機能が逆に過剰となり、異常運動が出やすくなると考えられています。同様にドーパミン受容体を遮断する抗精神病薬を長い間服用する

なく、歩行の状態などパーキンソン症状と、口の異常運動の程度を考慮し、主治医と相談して徐々に減量することをお勧めします。

（兵庫県医師会、藤原豊II姫路市、ふじわら心のクリニック院長）

◇第1、3、4日曜に掲載します。